

展示室1d ぎふの日本画 東に歩む

2022年4月5日(火)から6月26日(日)まで

○印は前期展示、●印は後期展示

岐阜県を含む中京圏は、江戸・京という東西の文化の中心地から中間の地点に位置し、両文化から影響を受けながら独自の文化を花ひらかせてきました。近現代に入っても、岐阜県の日本画家たちは、東と西の文化の中心地で絵を学ぶ傾向が続きました。いち早く開校した京都府画学校をはじめとする京都の教育機関に学ぶとともに、1887年の東京美術学校（現・東京藝術大学）、1929年の帝国美術学校（現・武蔵野美術大学、多摩美術大学）の開校に伴い、東京にも積極的に学びの場を求めるようになりました。院展の前田青邨や守屋多々志、日展の加藤栄三・東一兄弟などは、みな東京で学んだ人々です。本展では、岐阜県美術館の所蔵品から、東京画壇の画家と、彼らに学んだ岐阜ゆかりの画家たちの作品を紹介します。

作家名	生年-没年		作品名	制作年	技法、素材
てらさき 寺崎 広業	1866-1919	○	しゅうこうきはんず 秋江帰帆図	1910	絹本墨画淡彩
よこやま 横山 大観	1868-1958	●	げつめい きゆうだい ぜんせきへき 月明（旧題：前赤壁）	1913	絹本着色
かわい 川合 玉堂	1873-1957	○	うかいず 鵜飼図	1902	絹本着色
		○	ようろうず 養老図	1902	絹本着色
		●	ふじ 藤	1929	紙本着色
		●	なつふじ 夏富士	1955頃	紙本着色
こむろ 小室 翠雲	1874-1945	○	あしをあらうばんりのながれず 濯足萬里流図	1932	紙本着色
しのだ 篠田 柏邦	1883-1969	●	なま 苗とり	1920	絹本着色
		○	ばんしゅんしょうけい 晩春小景	1933	紙本着色
まえだ 前田 青邨	1885-1977	○	えんうんこうとう 烟雲古塔	1924	絹本墨画
かわさき 川崎 小虎	1886-1977	○	やけの はる 焼野の春	1937	紙本着色
		●	しよか みずべ しか おやこ 初夏の水辺（鹿の親子）	1940	紙本着色
		●	ぬまさんだい 沼三題 かいつむり	1940	紙本着色
		○	おたまじゃくし	1940頃	紙本墨画
はせがわ 長谷川 朝風	1901-1976	●	えん 苑	1967	紙本着色
かとう 加藤 栄三	1906-1972	○	しゅんぎょう 春暁	1935-44頃	絹本着色
		○	もくれん	1954	紙本着色
		●	ばら	1961	紙本着色
		●	てっせんか 鉄線花	1962	紙本着色
		●	えんう なか 烟雨の中	1970	紙本着色
もりや 守屋 多々志	1912-2003	●	ふんすい 噴水	1936	紙本着色
		●	バラ	1959頃	紙本着色
かとう 加藤 東一	1916-1996	●	りょうか 燎火	1981	紙本着色
		○	たかやまよまつ 高山夜祭り	1982	紙本着色
		○	もつこん うすずみざくら 木魂一淡墨桜	1984	紙本金地着色
		●	ぼうきょう 望郷	1993	紙本墨画
かさい 笠井 利之	1917-2004	○	みさき つばき 岬の椿	1968	紙本着色
ひえだ 稗田 一穂	1920-2021	○	はるの 春野	1976	紙本着色
かわさき 川崎 鈴彦	1925-	○	こうじょう ビール工場	1956	紙本着色
		●	なんめい 南溟	1982	紙本着色
つちや 土屋 禮一	1946-	●	つ じがぞう ブローチを付けた自画像	1972	紙本着色
		●	わいこ Y子	1974	紙本着色
		○	うんりゅう 雲龍	2011	紙本墨画淡彩